



ツアー・オブ・ジャパン南信州ステージの登りを行くメイン集団

### シクリスムエコーNo.129 2006年5月号



第10回ツアー・オブ・ジャパン ..... 2  
ナショナルチーム及び強化指定選手メンバー ..... 7



第53回全日本プロ選手権自転車競技大会トラックレース ... 8



第31回 ジロ・デル・レジオニ ..... 10  
ロードアンダー-23・イタリア遠征日本代表選手団 ..... 11

MTBジャパンシリーズ2006シーズン開幕 ..... 12  
日本自転車競技連盟ランキング新制度の試行について .. 13



競技大会結果 ..... 14



ツール・ド・韓国 2006 日本代表選手団 ..... 16  
連盟の動き ..... 16  
JCF協賛スポンサー ..... 16



この広報誌は、「競輪公益資金」の補助を受けました。  
<http://www.keirin.go.jp/>



# 10th TOUR OF JAPAN

東京ステージで先頭集団を引く区間1位のBELOHVOSCHIKS

## 5/14 大阪ステージ

### アジアの虎・黄が初優勝。2位は新城

今年で10回目の開催となるツアー・オブ・ジャパンが5月14日に開幕。4月1日に政令指定都市となった大阪府堺市の泉北周回コースで行われた。

繁華街やマンション群などを貫く泉北周回コースには、この大会で最も多い観衆がつかけることで知られる。コースレイアウトはほぼ長方形のシンプルなもの、1周12.8km。レースはこれを11周する総距離140.8km。高低差6mほどのフラットな平坦コースは、単独で逃げるのが難しく、例年のように大集団によるゴールスプリント勝負となる。

レースは序盤から南アフリカのハンコ・カシエルホーファー(コニカミノルタ)と、ラトビアのライビス・ペロフォシクス(ユニバーサルカフェ)の2人がアタック。積極的な走りを展開し、後続の大集団との差を広げた。

しかし強力なスプリンターを擁するチームや、地元堺市に拠点を置くスキル・シマノ勢がゴール勝負に持ち込むために後続集団のペースをコントロール。

ゴールまでの距離をにらみながら、徐々にその差を詰めていった。さらにYAHOO! JAPANのロゴマークをジャージに入れたチームバンの6選手が集団の先頭で一列になってハイペースで引っ張り、残り26kmで2人を吸収した。

そしてレースは予想どおり最後のゴール勝負に持ち込まれ、「アジアの虎」というニックネームを持つホンコン・チャイナの黄金宝(ワンカンポー)が大集団によるゴールスプリントを制して優勝。個人総合成績でも首位に立ち、グリーンジャージを獲得した。地元では「オリンピックでメダルが期待できるアスリート」として一般の人も知る存在。

黄は「ボクはロードレースよりもトラックのほうが得意だが、ホンコン・チャイナの代表として勝てたことがうれしい。アジアのレースを盛り上げるためにこれからも頑張りたい」

また同タイムの2位には21歳のU23日本チャンピオン・新城幸也(チームバン)が入った。日本でのメジャーレースは初参加という石垣島出身の新城は、「まだ自分にどんな力があるのか分

かっていない」と語り、区間2位の成績に驚く。チームメートのスプリンター宮澤崇史の牽引役だったが、終盤で後続集団の先頭に立ったことでチーム全体が体力を使い果たし、宮澤自身は混戦を抜け出せなかった。

## 5/15 奈良ステージ

### デュマが奈良を制し、総合トップに

大会2日目の奈良ステージは東大寺大仏殿の中門前からスタートする146.2kmで行われた。

この日は奈良の象徴である東大寺を出発し、山添村布目ダム周回コースまでの18.6kmをパレード走行。周回コースに入ってから正式なレースとなったが、勝負どころのステージとあって激しい戦いが展開された。

まずは日本チャンピオンの野寺秀徳(スキル・シマノ)、福島康司(チームバン)、ラトビアのライビス・ペロフォシクス、スロバキアのマーティン・ベリッツ(コニカミノルタ)ら5選手が飛び出して第1集団を形成。さらに後続から土井雪広(スキル・シマノ)やウクライナのウラジミール・デュマ(ユニバーサ

ルカフェ)ら3選手が追いつき8人となった。

後続の大集団はゴールまでの距離をにらみながらタイムを決定的な差に広げられないようにコントロール。しかし第1集団の動きは活発で、残り10kmになって土井、ベリッツ、デュマ、福島の人まで絞り込まれた。後続集団はタイム差を45秒まで縮めるが、ここから4選手がスピードアップ。ゴール前の最後の上り坂でデュマが混戦から抜け出してステージ初優勝。総合トップのグリーンジャージを着る黄金宝は52秒遅れの10位でゴールし、デュマが首位に立った。土井は最後まで優勝争いに加わり、3位でゴールした。

「チームメートのペロフォシクスにレース序盤でアタックしてもらい、レース中盤まで体力を温存することができた。こういったステージレースではエースを務めるので、総合優勝をねらうのがボクの役割。残り4ステージもこのジャージを守れるように走りたい」とデュマ。

首位を奪われた黄は、「山岳に強くないのでまずまずの走りだった」と落胆した様子ではなかった。

区間3位に入った土井は個人総合でも3位に。狩野智也とのツートップで臨む大会だが、総合成績でもチーム内でトップとなり、南信州からの走りが楽しみになった。

### 5/17 南信州ステージ

**ディヌッチがサバイバルレースを制す**  
全6区間で争われる大会の3日目、長野県飯田市で南信州ステージ



(155.3km)が行われた。

飯田駅前をスタートした選手たちは、繁華街を含む7.3kmをパレードして周回コースに突入。1周12.2kmのサーキットを12周する戦いの舞台は、急しゅんな上りを含むハードコースだ。周回コースに入っすぐに廣瀬佳正(スキル・シマノ)、宮澤崇史(チームバン)、森山大知(ミヤタ・スバル)ら6選手が第一集団を形成。これに対して総合トップのデュマを擁するユニバーサルカフェ勢が後続集団の先頭に立って追走を開始。残り40kmで逃げた選手をすべて吸収した。

その後、チームバンの福島晋一と新城幸也がアタックするが、ユニバーサルカフェ勢はそれを許さず吸収。先頭集団は15人に絞り込まれ、イタリアのダニエレ・ディヌッチ(ユニバーサルカフェ)が15人によるゴール勝負を制して優勝。チームメートのウラジミール・

デュマはタイム差なしの区間6位に入り、総合トップを死守した。日本勢では鈴木真理(ミヤタ・スバル)がタイム差なしの区間3位に入った。

「6人の逃げはまったく心配していなかった。今日はチームメートのデュマの総合1位を守ることを最優先にして、集団のペースを維持することに集中した。最後は勝てるチャンスが生まれたので、勝負に挑んでみた」とディヌッチ。

鈴木は集団内に埋もれて、持ち前の爆発力が生かせなかった。「この南信州ステージで勝つのは伊豆に匹敵するほどの価値がある。最後は得意のスプリント勝負に挑んだが、抜け出すことができずに終わってしまった。それでも今日のレースはチームとして積極的に走ることができ、森山ら若い選手には非常にいい経験になっただろう」と鈴木は満足そうだった。



信州ステージのパレード、地元小学生も応援



信州ステージのフィニッシュを制したDI NUCC(右)

富士山ステージの個人TTを制したAUGUSTYN

富士山ステージ、日本人最高5位の狩野



5/19 富士山ステージ

オーガスティンが富士山を制して総合2位へ  
静岡県小山町で行われた富士山ステージは、91選手が1人ずつスタートして11.4kmの坂を駆け上がる個人タイムトライアル。

大会唯一の個人タイムトライアル。おおむね総合成績の下位選手から1分間隔でスタートし、標高差1,200mを駆け上がる。総合成績のトップ3からは2分間隔だ。しかしこの日の舞台となった「ふじあざみライン」はあいにくの雨。各チームのマッサージャーが選手の足に雨天用のオイルを塗るなどの作業に追われた。雨脚は後発スタートなるほど強くなり、加えてゴールの須走五合

目は風も強くなっていく。しかし区間優勝争いは、やはり有力選手が集まった最後の十数人までもつれ込んだ。

最後から15番目、南アフリカのジョンリー・オーガスティン(コニカミノルタ)が快走を見せ、それまでの記録を4分近く上回る40分56秒49のトップタイムを記録。昨年の大会でこの区間を制したアンドレイ・ミズロフ(カペック)は42分55秒12で区間3位。

日本勢では上りを得意とする狩野智也(スキル・シマノ)が43分33秒69で、5位に食い込む走り。土井雪広も必死の走りで44分33秒56。そして最終走者のデュマはオーガスティンに1分01秒28遅れでゴール。しかし総合成績では

デュマが首位を守り、オーガスティンが16秒遅れの総合2位に浮上した。

「キツイ勾配に苦しんだが、総合成績を守れてうれしい。このグリーンジャージを最後まで着続けたい(デュマ)

「初優勝できたことに驚いている。日本企業がスポンサーとなっているボクたちのチームは、この大会で誰かが勝つことが目標だった。明日は総合優勝を逆転するために重要なレース。長い一日になりそうだ(オーガスティン)

「前半は昨年を上回るペースで飛ばしたが、残り3kmから伸び悩んでしまった。(無冠の帝王を返上するためには)明日しかない(狩野)



伊豆ステージ、スタート前のDUMA(左)、AUGUSTYN(中央) 伊豆ステージ、伊豆スカイラインを行く先頭の5名



伊豆ステージ、1位LLOYD(右)と2位狩野

### 5/20 伊豆ステージ

#### 狩野が伊豆ステージ2位で総合3位に

5月20日に静岡県伊豆市などで伊豆ステージ(110.48km)が行われた

大会はいよいよ残り2日。未明までの豪雨はやんだが、この日の舞台となる日本サイクルスポーツセンターや伊豆スカイラインは強風と濃霧による荒天となった。90選手は日本サイクルスポーツセンターの8kmサーキットを5周回し、今大会最後の勝負どころといわれる伊豆スカイラインに突入した。

序盤から飛び出していた狩野は、福島晋一(チームパン)、田代恭崇(ブリヂストン・アンカー)ら5選手と第1集団を形成。その後、後続集団から単独で追走してきたマシュー・ロイド(サウスオーストラリアドットコム)も加わり、

およそ2分差を後続の大集団につけた。

残り25kmで狩野はロイドと2人になり、協力しながらゴールを目指す。前日までの成績で総合5位の狩野と7位のロイドは、ステージ優勝とともに総合成績を上げる目的が共通し、後続集団の追撃を振り切ってゴールへ。最後は終始狩野を引っ張っていたロイドがゴール勝負を制した。総合成績ではデュマが首位を守り、狩野は3位へ。ロイドは5位に浮上した。

「後続集団にシマノのドイがいるからカノウが引けないのは分かっていたが、彼には先頭を交替してくれるように頼んだ。ボクは上りが得意なので前日の富士山では勝ちをねらいにいったが、残念な結果に。今日はこの素晴らしいレースで勝つことができうれし

い(ロイド)

「一緒に逃げた選手が攻めの気持ちを持っていたので、ひさしぶりにいいレースができた。田代選手や福島晋一選手が、(総合成績を上げたいという)ボクを気遣ってくれた。区間優勝はしたかったが、ロイドが本当に強すぎた」(狩野)

### 5/21 東京ステージ

#### ウクライナのデュマが総合優勝を達成

大会は5月21日の最終日に東京ステージ(148.9km)が行われた。

午前11時に日比谷公園の南に位置する日比谷シティ前をスタートして南

東京ステージのスタート寸前  
リーダージャージの3名

東京ステージ、スタート前のひととき



東京ステージ、スタート3分前からの道路規制のため、スタートラインに急ぐ選手達

下。15.9kmの一般道を走って大井ふ頭の周回コースに入った。周回コースは1周7kmで、ここを19周する。大会唯一のハイスピードコースだ。夏を思わせる強い日差しが降り注ぐ中、86選手がゴールを目指した。

周回コースでは日本勢が積極的に飛び出す。デュマのリーダー・ジャージを守りたいユニバーサルカフェ勢が後続集団の先頭に立って、ペースをコントロール。しかしレース中盤には新城幸也(チームバン)、鈴木真理(ミヤタ・スバル)、田代恭崇(ブリヂストン)、新保光起(愛三工業)、長野耕治(マトリックス)の5人が第一集団を形成。残り15kmで先頭集団は吸収されたが、その直後にライビス・ペロフォシクスら4選手がカウンターアタック。これに新城が再び加わり、ゴールに突き進む。最後はペロフォシクスがロングスパートを決めて優勝。チームメートのデュマは後続の大集団の中でゴールし、個人総合優勝を達成した。南アフリカのジョンリー・オーガスティンが16秒遅れの同2位。狩野智也は1分28秒遅れの同4位。

デュマは奈良ステージで抜け出して区間優勝するとともに、総合成績でもトップに。残り4区間を、ペロフォシクスらチームメートが鉄壁のアシストをして東京ステージまでグリーンジャージを守り切った。

新城は区間5位に終わったが、国内エリートレース初参加とは思えぬ存在感を示した。

山岳賞はオーガスティン、ポイント賞は鈴木が最終日の中間スプリントポイントをことごとくトップ通過して逆転で獲得した。

(TOJ NEWS 抜粋 / 山口 和幸)

#### [ 競技結果 ]

第10回ツアー・オブ・ジャパン(2006/5/14-21 堺/奈良/飯田/富士/伊豆/東京)

##### 個人総合時間順位

1	DUMA Vladimir	TUC	18:15:05
2	AUGUSTYN John-Lee	KON	18:15:21
3	MIZUROV Andrey	CAP	18:16:14
4	KANO Tomoya	SKS	18:16:33
5	DYACHENKO Alexandr	CAP	18:16:47
6	LLOYD Matthew	SAI	18:17:21
7	DOI Yukihiro	SKS	18:17:51
8	VELITS Martin	KON	18:18:04
9	VELITS Peter	KON	18:18:33
10	BEPPU Takumi	AIS	18:18:47

##### 個人総合ポイント賞

1	SUZUKI Shinri	MYT	36p
---	---------------	-----	-----

日本人で唯一表彰台に上がった、総合ポイント賞1位の鈴木真理(先頭/東京ステージ)



2	WANG Kam Po	HKG	32p
3	BELOHVOSCHIKS Raivis	TUC	30p

##### 個人総合山岳賞

1	AUGUSTYN John-Lee	KON	15p
2	BELOHVOSCHIKS Raivis	TUC	15p
3	DYACHENKO Alexandr	CAP	13p

##### 団体総合時間順位

1	TEAM KONIKA MINOLTA	54:51:42
2	CYCLING TEAM CAPEC	54:53:34
3	TEAM UNIVERSAL CAFFE	54:56:57

##### 第1ステージ(大阪 140.80km)

1	WANG Kam Po	HKG	3:06:18
2	ARASHIRO Yukiya	VAN	3:06:18
3	HUTCHINSON Ashley	SAI	3:06:18
4	DI NUCCI Daniele	TUC	3:06:18
5	VERVECKEN Erwin	FID	3:06:18
6	SHINAGAWA Masahiro	SKS	3:06:18
7	WELLENS Bart	FID	3:06:18
8	IJIMA Makoto	BGT	3:06:18
9	MIYAZAWA Takashi	VAN	3:06:18
10	DYMOVSKIKH Alexandr	CAP	3:06:18

##### 第2ステージ(奈良 146.20km)

1	DUMA Vladimir	TUC	3:52:16
2	VELITS Martin	KON	3:52:23
3	DOI Yukihiro	SKS	3:52:26
4	FUKUSHIMA Koji	VAN	3:52:34
5	GILIOLI Fabio	TUC	3:53:08
6	SUZUKI Shinri	MYT	3:53:08
7	DI NUCCI Daniele	TUC	3:53:08
8	VELITS Peter	KON	3:53:08
9	MEDYANNIKOV Andrey	CAP	3:53:08
10	WANG Kam Po	HKG	3:53:08

##### 第3ステージ(南信州 155.30km)

1	DI NUCCI Daniele	TUC	4:11:17
2	WANG Kam Po	HKG	4:11:17
3	SUZUKI Shinri	MYT	4:11:17
4	LLOYD Matthew	SAI	4:11:17
5	MIZUROV Andrey	CAP	4:11:17
6	DUMA Vladimir	TUC	4:11:17

7	TASHIRO Yasutaka	BGT	4:11:17
8	VELITS Martin	KON	4:11:17
9	VELITS Peter	KON	4:11:17
10	DYACHENKO Alexandr	CAP	4:11:17

##### 第4ステージ(富士山 個人TT:11.40km)

1	AUGUSTYN John-Lee	KON	40:56.49
2	DUMA Vladimir	TUC	41:57.77
3	MIZUROV Andrey	CAP	42:55.12
4	DYACHENKO Alexandr	CAP	43:28.13
5	KANO Tomoya	SKS	43:33.69
6	LLOYD Matthew	SAI	44:21.15
7	DOI Yukihiro	SKS	44:33.56
8	VELITS Peter	KON	44:33.68
9	BEPPU Takumi	AIS	44:35.09
10	GILIOLI Fabio	TUC	44:50.16

##### 第5ステージ(伊豆 110.48km)

1	LLOYD Matthew	SAI	3:12:26
2	KANO Tomoya	SKS	3:12:26
3	DUMA Vladimir	TUC	3:13:26
4	MIYAZAWA Takashi	VAN	3:13:26
5	SUZUKI Shinri	MYT	3:13:26
6	BEPPU Takumi	AIS	3:13:26
7	VELITS Peter	KON	3:13:26
8	ARASHIRO Yukiya	VAN	3:13:26
9	STYBAR Zdenek	FID	3:13:26
10	AUGUSTYN John-Lee	KON	3:13:26

##### 第6ステージ(東京 148.90km)

1	BELOHVOSCHIKS Raivis	TUC	3:09:06
2	VELITS Martin	KON	3:09:10
3	DYACHENKO Alexandr	CAP	3:09:10
4	MIZUROV Andrey	CAP	3:09:10
5	ARASHIRO Yukiya	VAN	3:09:10
6	PAUWELS Kevin	FID	3:09:51
7	WANG Kam Po	HKG	3:09:51
8	DI NUCCI Daniele	TUC	3:09:51
9	MIYAZAWA Takashi	VAN	3:09:51
10	MIFUNE Masahiko	MYT	3:09:51

## ナショナルチーム 及び 強化指定選手メンバー

## ナショナルチーム

&lt;トラック短距離&gt; 男子5名、女子1名

金子 貴志 *カネ タカシ*  
(JPCA・愛知)1975生及川 裕奨 *イワガワ ユウショウ*  
(JPCA・岩手)1981生渡邊 一成 *ワタナベ イチマサ*  
(JPCA・福島)1983生永井 清史 *ガイイキヨシ*  
(JPCA・岐阜)1983生北津留 翼 *キタツル ツバサ*  
(JPCA・福岡)1985生佃 咲江 *イナエ サキエ*  
(北海道・北海商科大学)1985生<トラック中距離>  
男子1名飯島 規之 *イイジマ ノリユキ*  
(JPCA・埼玉)1966生

## 強化指定選手・エリート

&lt;トラック短距離&gt; 7名

男子 稲垣 裕之(JPCA・京都)・成田 和也(JPCA・福島)・井上 昌己(JPCA・長崎)・新田 祐大(JPCA・福島)  
女子 篠崎 新純(千葉・明治大学)・岡 希美(群馬・法政大学)・沼部早紀子(栃木・順天堂大学)

&lt;トラック中距離&gt; 10名

男子 飯島 誠(JPCA・チームリザ・ストン・アソカ)・西谷 泰治(愛知・愛三工業)・盛 一大(愛知・愛三工業)  
太田 貴明(京都・京都産業大学)・小豆畑郁也(福島・日本大学)・池田 丈志(奈良・鹿屋体育大学)  
川西 貴之(岐阜・日本大学)・角 令央奈(兵庫・鹿屋体育大学)・白川 巧(大分・日本大学)  
女子 萩原麻由子(群馬・鹿屋体育大学)

## 末永くお付き合いいただくために。



シマノ製品をご愛用いただきまして

ありがとうございます。

シマノではユーザーの皆様へ、当社製品と

末永くお付き合いいただけるよう、

各種補修用パーツをご用意しております。

- 製品についている取扱い説明書をご使用前に必ずお読みください。
- 機能保証のために分解できないパーツもあります。
- お近くの自転車店でご相談下さい。別途送料がかかる場合があります。
- 在庫状況により、品切れの場合もあります。予めご了承下さい。

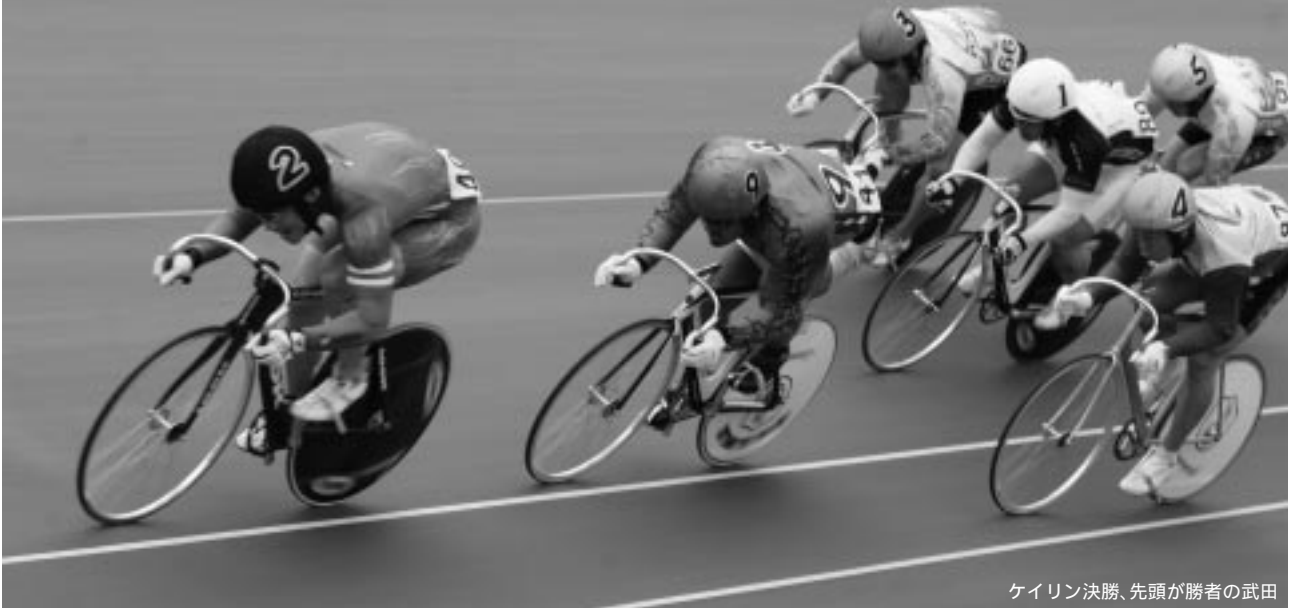
**SHIMANO**

www.shimano.com

XBC001-A

# 第53回全日本プロ選手権自転車競技大会トラックレース

ケイリンは武田が勝利! チームスプリントと団体追抜で大会新記録



ケイリン決勝、先頭が勝者の武田

5月15日(月曜日)愛媛県の「瀬戸風バンク」松山競輪場で全国8地区から集まった178名の競輪選手によって、第53回全日本プロ選手権自転車競技大会トラックレースが開催された。

当日は天候にも恵まれ、多くの観衆の声援の中、7種目の競技が行われ、2つの団体種目で大会新記録が打ち出された。



チームスプリント優勝の四国チーム



団体追抜優勝の近畿チーム



## スプリント優勝の金子(下)と2位の渡邊



個人追抜は昨年に続き内田が優勝



1kmTT優勝の矢口

## [ 競技結果 ]

第53回全日本プロ選手権自転車競技大会  
トラック(2006/5/15 愛媛・松山競輪場)

## 1kmタイムトライアル

- 1 矢口啓一郎 群馬 関東地区 1:05.082
- 2 稲垣 裕之 京都 近畿地区 1:05.389
- 3 永井 清史 岐阜 中部地区 1:05.710
- 4 稲村 成浩 群馬 関東地区 1:05.873
- 5 渡辺 十夢 福井 近畿地区 1:06.094
- 6 篠原 龍馬 高知 四国地区 1:06.960

## スプリント

- 1 金子 貴志 愛知 中部地区
- 2 渡邊 一成 福島 北日本地区
- 3 北津留 翼 福岡 九州地区
- 4 前反祐一郎 広島 中国地区

## ケイリン

- 1 武田 豊樹 茨城 関東地区
- 2 海老根恵太 千葉 南関東地区
- 3 後閑 信一 群馬 関東地区
- 4 山田 裕仁 岐阜 中部地区
- 5 渡邊 晴智 静岡 南関東地区
- 6 鈴木 誠 千葉 南関東地区

## 日韓交歓競技ケイリン

- 1 廣川 泰昭 愛媛 四国地区
- 2 武田 良太 愛媛 四国地区
- 3 ジュ・クァンイル 大韓民国
- 4 葛西雄太郎 愛媛 四国地区
- 5 ヨン・ジンギル 大韓民国
- 6 パク・ジヨルユン 大韓民国

## 4km個人追抜競走

- 1 内田 慶 栃木 関東地区 4:42.044
- 2 飯島 規之 埼玉 関東地区 4:48.249
- 3 鳥生 知八 愛媛 四国地区 4:53.164
- 4 齋藤 昌弘 群馬 関東地区 4:58.982
- 5 佐々木孝司 青森 北日本地区 4:59.210
- 6 児玉 利文 岐阜 中部地区 4:59.305

## ポイントレース

- 1 四宮 哲郎 京都 近畿地区 37p
- 2 小松 剛之 宮城 北日本地 34p
- 3 佐藤 友和 岩手 北日本地 31p
- 4 岡村 潤 静岡 南関東地 30p
- 5 木部 孝美 静岡 南関東地区 27p
- 6 林 次郎 福岡 九州地区 17p

## チームスプリント

- 1 四国地区 渡部・濱田・岡本 1:14.923
- 2 南関東地区 中村・伊勢崎・武井 1:17.343
- 3 関東地区 坂本・神山・中嶋 1:16.347
- 4 近畿地区 村上・佐野・渡辺 1:17.242
- 5 九州地区 島田・松本・田川 1:17.295
- 6 北日本地区 伏見・佐藤・佐々木 1:17.632

## 4km団体追抜競走

- 1 近畿地区 窓場・久米・岩崎・山岸 4:29.322
- 2 関東地区 濫谷・田中・北村・手島 4:37.107
- 3 中部地区 坂上・坂上・岩本・辻 4:42.046
- 4 南関東地区 松江・海野・村本・山崎 4:42.612
- 5 九州地区 大塚・安東・加藤・小岩 4:42.898
- 6 四国地区 中村・藤原・赤松・池本 4:42.905



## 第31回 ジロ・デル・レジオニ

新城が第4ステージ2位!



ジロ・デル・レジオニ(UCI2-2、4/26~5/1)に、今年も日本が誇るU23の6名の選手が参戦した。連続出場となる新城幸也、田中 聡(TeamVANG)と畑中 勇介、村山規英(ブリヂストンアンカー)は活動拠点を欧州に置いており、三瀧光誠(鹿屋体育大)、秋山英也(日本大学)も世界大学選手権を含め、海外遠征は初体験ではない。とはいえ、U23世界最高峰の選手たちが国を代表して競い合うこのステージレースは、準世界選手権とも言える、完走すら難しい大会だ。

今年は、第4ステージまでに山岳が集中。時差やハイレベルの展開に慣れないうちに、厳しいステージを戦うことになる。

第1ステージから、日本代表は常に固まって好位置をキープ。新城の22位を筆頭に、三瀧、畑中、田中、若干遅れて村山、秋山がゴール。

今大会の難関ステージの1つ、第2ステージは道幅が細く、アップダウンの繰り返りで構成され、中盤から豪雨に見舞われたこともあり、非常に厳しいものとなった。この決戦を制したのは、U23の世界チャンピオン、グラボウスキ。日本代表も健闘し、後半の山岳でも、先頭の少数集団で田中、新城、三瀧が好位置をキープ。新城が第2集団、三

瀧が第3集団でゴール。しかし、ラスト5kmの下りで激しく落車した田中は、悔しくも4分遅れに。

序盤と終盤に山岳が設定された第3ステージでは、序盤、三瀧を含む逃げが決まるが、吸収される。その後もウクライナのコントロールは、決定的な動きを許さない。最終局面、先行する数名の選手から抜け出したグラボウスキが連勝を決めた。先頭から2分遅れで、新城、田中、三瀧がゴール。

そして迎えた今大会最難関の第4ステージ。繰り返すアップダウンの中、山岳賞も4か所に設定されている。集団を抜け出した新城は、最後の山岳を越え、5名の先頭集団でゴール前の周回コースに突入。うちふたりが脱落した後も、後続を振り切り、3名でゴールスプリントに挑んだ。結果は、堂々の2位。レジオニで日本人選手が表彰台に上るといって、ロード史上に残る快挙を成し遂げた。田中、三瀧も14秒差でゴール。無事全員が完走し、このステージに抱いていたスタッフの懸念は嬉しくも大きく裏切られることになった。

この「夢」に手が届いた第4ステージから、全員が変わった。平坦の第5ステージ、逃げグループを作ろうと、三瀧や畑中が積極的に自らアタックを仕掛けて行く。リーダーのウクライナの強

かなコントロール下、決定的な逃げが形成されないままゴールを迎えたが、ラスト500mで村山がアシストするべく新城に合流。スプリントに備えた矢先、落車が発生。集団後部はゴール勝負に臨むには致命的な足止めを食らう。村山は落車回避に膨らんだ集団を内側から突っ切り7位。新城は10位でゴール。なんと2名が10位入賞を果たした。午後のタイムトライアルではグラボウスキが優勝。自ら確かな強さを立証した。

平坦の最終ステージ、逃げグループに誰かを入れようと日本代表は次々と積極的に仕掛けて行く。欧州での経験の浅い三瀧と秋山も、確実にこちらのレースへの順応を果たしつつあるようだ。レースは総合を死守したいウクライナと、ステージ優勝を目指すイタリアを中心に、ハイペースで展開。

逃げは捉えられ、大集団のまま、ラストの小周回に突入。激しい位置取り争いの中、新城は経験を活かし、村山を連れてするするとまぐ先頭に上がり、スプリントに参加。結果は、村山6位、新城8位、田中16位。過去最高の入賞数を果たした。

全員の完走だけでなく、「夢」の表彰台と、10位以内入賞を実現させた今年。「次回は一勝を、確かな手応えと、さらなる闘志を胸に、今大会は幕を下ろした。今後の成長が楽しみだ。(小野 絹代)



## 「競技結果」

第31回ジロ・デル・レジオ  
(2006/4/26-5/1 伊予)

個人総合成績 (855.9km)

1	GRABOVSKIY Dymytriy	UKR	20:51:28
2	BELKOV Maxim	RUS	20:52:07
3	VANENDERT Jelle	BEL	20:52:22
27	新城 幸也	JPN	20:55:03
45	三瀧 光誠	JPN	20:58:08
79	畑中 勇介	JPN	21:21:01
94	村山 規英	JPN	21:32:43
102	秋山 英也	JPN	21:49:11

団体総合成績

1	ベルギー	BEL	62:38:09
2	フランス	FRA	62:38:42
3	ロシア	RUS	62:39:44
12	日本	JPN	62:52:48

第1ステージ (107.5km)

1	GOSS Matthew	AUS	2:37:50
2	GATTO Oscar	ITA	2:37:50
3	LUND Anders	DEN	2:37:50
21	新城 幸也	JPN	2:37:50
35	三瀧 光誠	JPN	2:37:50
62	田中 聡	JPN	2:37:50
77	畑中 勇介	JPN	2:37:50
89	村山 規英	JPN	2:38:10
110	秋山 英也	JPN	2:43:14

第2ステージ (167.8km)

1	GRABOVSKIY Dymytriy	UKR	4:15:26
2	VAN AVERMAET Greg	BEL	4:15:26
3	LARPE Mickael	FRA	4:15:26
18	新城 幸也	JPN	4:15:33
52	三瀧 光誠	JPN	4:16:10
82	田中 聡	JPN	4:19:41
92	畑中 勇介	JPN	4:23:20
101	秋山 英也	JPN	4:31:08
111	村山 規英	JPN	4:34:32

第3ステージ (152.9km)

1	GRABOVSKIY Dymytriy	UKR	3:51:05
2	VANENDERT Jelle	BEL	3:51:05
3	LUND Anders	DEN	3:51:22
42	新城 幸也	JPN	3:53:19

44	田中 聡	JPN	3:53:19
66	三瀧 光誠	JPN	3:53:29
70	畑中 勇介	JPN	3:54:17
110	村山 規英	JPN	4:04:40
114	秋山 英也	JPN	4:04:49

第4ステージ (168.6km)

1	HUGUET Yann	FRA	4:34:33
2	新城 幸也	JPN	4:34:33
3	BELKOV Maxim	RUS	4:34:33



37	田中 聡	JPN	4:34:47
42	三瀧 光誠	JPN	4:34:47
63	村山 規英	JPN	4:39:49
71	畑中 勇介	JPN	4:44:55
98	秋山 英也	JPN	4:48:47

第5ステージ (115.6km)

1	ILESIC Aldoino	SLO	2:34:13
2	GATTO Oscar	ITA	2:34:13

3	FEILLU Romain	FRA	2:34:13
7	村山 規英	JPN	2:34:13
10	新城 幸也	JPN	2:34:13
60	田中 聡	JPN	2:34:16
79	三瀧 光誠	JPN	2:34:16
102	秋山 英也	JPN	2:39:16
108	畑中 勇介	JPN	2:39:16

第5bステージ (11km)

1	GRABOVSKIY Dymytriy	UKR	13:05
2	STANNARD Ian	GBR	13:14
3	STEENSEN Andre	DEN	13:35
50	新城 幸也	JPN	14:36
84	田中 聡	JPN	15:30
94	畑中 勇介	JPN	15:55
100	三瀧 光誠	JPN	16:08
101	村山 規英	JPN	16:10
107	秋山 英也	JPN	16:19

第6ステージ (132.5km)

1	GATTO Oscar	ITA	2:44:59
2	ILESIC Aldoino	SLO	2:44:59
3	GOLAS Michal	POL	2:44:59
6	村山 規英	JPN	2:44:59
8	新城 幸也	JPN	2:44:59
16	田中 聡	JPN	2:44:59
65	秋山 英也	JPN	2:45:28
79	三瀧 光誠	JPN	2:45:28
92	畑中 勇介	JPN	2:45:28

## ロードアンダー23・イタリア遠征日本代表選手団

大会/日程 第61回リベラツィオーネ(UCI1.2)2006年4月25日

第31回ジロ・デル・レジオ(UCI2.2U)2006年4月26日~5月1日

派遣日程 2006年4月22日~5月3日

派遣選手団

監督 大門 宏(ロード競技部会部会員)

メカニック 藤野 智一(ロード競技部会部会員)

マッサージ ピアンキ・セルジョ(イタリア在住)

広報 小野 絹代(ロード競技部会部会員)

選手 新城 幸也(沖縄・チームパン)、田中 聡(神奈川・チームパン)

三瀧 光誠(山形・鹿屋体育大学)、秋山 英也(長野・日本大学)

畑中 勇介・村山 規英(2名共東京・ブリヂストン・アンカー)



Dream Skyward.

JAL

ご予約・お問い合わせ

[www.jal.co.jp](http://www.jal.co.jp)

国内線 ☎0120-25-5971  
(営業時間 6:30~22:00/年中無休)

国際線 ☎0120-25-5931  
(営業時間 8:00~21:00/年中無休)

# マウンテンバイク・ジャパンシリーズ 2006 シーズン開幕

クロスカントリーが八幡浜、ダウンヒルが箱館山で開幕



## <クロスカントリー>

4月23日(日)愛媛県八幡浜市・市民スポーツパークにてクロスカントリー第1戦が行われ、エリート男子は野口 忍(トレック)、エリート女子は片山梨絵(トレック)が初戦を飾った。続く第2戦は、竹谷賢二(SPECIALIZED)が優勝し、女子エリートは片山梨絵(TREK)が初戦に続き2連勝を飾った。

## <ダウンヒル>

ゴールデンウィーク後半の5月5日、6日に滋賀県高島市今津町箱館山にてダウンヒル初戦がとクロスカントリーの第2戦が行われた。

ダウンヒル男子エリートは安達 靖(Team Ikuzawa)が、女子エリートは渡

辺キャリー(キャノンデール)がそれぞれ第1戦を制した。

今年のジャパンシリーズは、クロスカントリーが8戦、ダウンヒルが5戦行われる。

## [ 競技結果 ]

MTBジャパンシリーズ 八幡浜 XC#1  
(2006/4/23 愛媛・八幡浜)

XCIリト男子(33km)

- 野口 忍 京都 TREK 2:15:48.96
- 山本 和弘 長野 キャノンデール 2:16:02.17
- 小笠原崇裕 長野 OGA 2:17:54.04
- 山本 幸平 新潟 アウトドア校 2:19:41.42
- 白石 真悟 大阪 シブノキガ 2:20:50.95
- 色川 浩樹 茨城 SPECIALIZED 2:23:05.82
- 竹之内 悠 京都 Panasonic 2:23:45.80

- 竹谷 賢二 千葉 SPECIALIZED 2:25:07.85
- NA SANG HOON 茨城 FDR 2:25:42.47
- 山口 孝徳 長野 SUBARU 2:26:56.56

XCIリト女子(26.4km)

- 片山 梨絵 神奈川 TREK 2:28:44.11
- 田崎 綾 千葉 2:33:27.82
- 深井 薫 大阪 BMC FKI 2:41:16.75
- 矢沢みつみ 山梨 SY-Nak 2:44:05.70
- 長井 美香 奈良 masahiko 2:52:33.40
- 酒井 真清 大阪 Testach 2:54:22.20
- 豊岡 英子 大阪 bicinoko.com -1Lap
- 佐藤 百江 東京 club SY-Nak -1Lap

MTBジャパンシリーズ 箱館山 DH#1, XC#2  
(2006/5/5-6 滋賀・箱館山)

DH男子エリート(2km)

- 安達 靖 愛知 Ikuzawa 3:14.031
- 井手川直樹 広島 G-cross 3:14.273
- 内嶋 亮 東京 G-cross 3:15.108
- 丸山由紀夫 愛知 Mom&Pop 3:22.287
- 丸山 弘起 長野 Canondale 3:22.643
- 竹本 将史 埼玉 ブリヂストン 3:24.116
- 三宅 和之 埼玉 KHS重力技 3:24.544
- 向原 健司 大阪 KHS重力技 3:25.985
- 金子 真吾 長野 ASTRIX 3:26.708
- 青柳修一郎 東京 SPECIALIZED 3:27.876

DH女子エリート(2km)

- 渡辺 キャリー 長野 キャノンデール 4:03.316
- 福本 弘佳 兵庫 輪娛ロッド 4:06.755
- 飯塚 朋子 大阪 4:08.373
- 富田 敬子 奈良 TECHIN式 4:23.901
- 楮本百合子 兵庫 KOUTA 4:45.777
- 前 さつき 大阪 Think 4:45.795
- 安達 勅実 埼玉 guavajelly 4:54.888
- 菅原 亮香 岩手 LAVENDER 4:59.906
- CLAUDIA CLEMENT 愛知 BRA 6:02.348
- 服部 良子 神奈川 風魔横浜 10:22.268

XC男子エリート(48km)

- 竹谷 賢二 千葉 SPECIALIZED 2:00:30.55
- 小野寺 健 京都 SUBARU 2:00:43.77
- 白石 真悟 大阪 シブノキガ 2:01:36.02
- 色川 浩樹 茨城 SPECIALIZED 2:02:56.94
- 竹之内 悠 京都 Panasonic 2:03:21.32
- 山本 幸平 新潟 アウトドア校 2:04:10.21
- 山口 孝徳 長野 SUBARU 2:05:09.14
- 野口 忍 京都 TREK 2:06:27.12
- 松本 駿 長野 TREK 2:08:12.39
- 門田 基志 愛媛 SPECIALIZED 2:08:45.03

XC女子エリート(30km)

- 片山 梨絵 神奈川 TREK 1:30:46.98
- 田近 郁美 岐阜 MSC 1:36:30.82
- 酒井 真清 大阪 Testach 1:38:42.57
- 矢沢みつみ 山梨 シブノキガ 1:41:19.97
- 深井 薫 大阪 BMC FKI 1:42:59.07
- 池田 桂子 大阪 Testach 1:44:07.43
- 笹本 みき 山梨 splash 1:48:45.37
- 光田 真基 三重 EastWest 1:51:27.22
- 丸山八智代 長野 -2Laps

## 日本自転車競技連盟ランキング新制度の試行について

本連盟ランキング制度は2年間休止しておりましたが、2006年度より、制度を改めて試行を開始することとなりました。制度を改めるにあたり、旧制度では国外で活動する競技者の成績が順当に反映できなかったことを修正し、できる限りUCIコンチネンタル・ランキングとの整合性を果たせるように配慮しています。

制度の詳細はJCF規則集補遺としてすでに配布いたしましたとおりですが、この補遺の配布と同時期にUCI規則が改訂され、国内選手権に与えられるポイントが大きく変わりました。これに伴って、すでに配布いたしました補遺に記載の【別表4】国内ロード競技大会用ポイント・テーブルを変更せざるを得なくなりました。これらにつきましては、以下に「制度」を再録いたしますのでご覧ください。なお【別表】はJCFホームページをご参照下さい。

### 日本自転車競技連盟ランキング制度(2006年試行)

#### 1. 目的

財団法人日本自転車競技連盟(以下「本連盟」)、本連盟加盟団体が主催する公認大会、競技別委員会が認める競技大会およびUCI国際競技日程の競技大会のうち、対象大会、指定種目に参加した競技者にポイントが付与する。このポイントの累計によりランキングを与え、明確な種目別、階層別の評価基準とし、登録競技者の競技力と競争心の向上に寄与する。

この日本自転車競技連盟登録競技者を対象としたランキングは本連盟固有の財産である。

#### 2. 対象競技者

(1) 本連盟の登録競技者とする。

#### 3. ポイントを付与する競技

(1) 競技者にポイントを付与する競技は以下の競技とする

- ①トラック・レース ②ロード・レース  
③シクロ・クロス ④マウンテンバイク(MTB)

#### 4. ポイントの対象大会と大会別ポイントの決定

(1) 対象競技大会と大会別ポイントは、本連盟競技運営委員会が決定する。決定事項に変更があった場合は、シクリスムエコー誌上で公表する。

(2) 対象競技大会と大会別ポイントは、大会の規模、内容、競技水準、参加競技者のカテゴリにより定める。

(3) オープン競技大会あるいは国際競技大会(国内開催、国外開催)においては、オープン参加者および外国競技者を含めた順位でポイントを与える。

(4) 主催者は、競技大会の1週間前までに、エントリー競技者のリストを本連盟あてにEメールまたは本連盟と事前に取り決めた方法で送信しなければならない。

(5) 主催者は、JCF規則第42条(2)に従い、競技結果が出たなら、速やかに本連盟あてに競技結果を、スタートした競技者のリストを添えて、Eメールまたは本連盟と事前に取り決めた方法で、大会終了後24時間以内に送信しなければならない。この場合、付表6に示される「リザルト等の様式見本」に準じ、登録証番号、UCIコードを付すこと。

主催者は、競技結果に変更があった場合は、速やかに本連盟に連絡しなければならない。

#### 5. トラック・レースにおけるポイントの付与

(1) 対象競技大会および大会別のポイント

UCI国際競技日程上の大会および別表1(ホームページ参照)

に示す国内競技大会。

(2) 順位によるポイント

UCI国際競技日程上の大会においては、UCI規則3.3.010に準じる。国内競技大会は別表3(ホームページ参照)による。

(3) ポイントの集計とランキングの公表

① ポイントの集計区分

種目別に集計する。

② 男子エリート(U23層も含む)の集計は、エリートのトラック世界選手権の直後に無得点の状態から開始し、次回の世界選手権で終了する。ランキングは、UCIトラック・ランキング発表の日を目処として作成・発表する。

③ 男子ジュニア、女子の集計は、1月1日に無得点の状態から開始し、12月31日で終了する。ランキングは、クラス2以上の大会終了後およびシーズン終了時に作成・発表する。

④ 必要な場合は、前回のランキングを修正することがある。

#### 6. ロード・レース

(1) 対象競技大会および大会別のポイント

UCI国際競技日程上の大会および別表3(ホームページ参照)に示す国内競技大会。

(2) 順位によるポイント

UCI国際競技日程上の大会については、UCI規則第2部第X章、第XI章、第XII章、第XIII章にそれぞれ規定されるポイントに準じる。国内競技大会は別表4による。

(3) ポイントの集計とランキングの公表

① ポイントの集計区分

ステージ・レースを含む総合を集計する。

② 男子エリートとU23の集計は、10月1日から翌年の9月30日までに獲得されたポイントを加算して行う。ランキングは、UCIロード・コンチネンタル・ランキング発表の日を目処として作成・発表する。

③ 男子U23、男子ジュニア、女子の集計は、1月1日に無得点の状態から開始し、12月31日で終了する。ランキングは、UCIロード・コンチネンタル・ランキング発表の日を目処として作成・発表する。

④ 必要な場合は、前回のランキングを修正することがある。

#### 7. シクロ・クロス

UCIシクロ・クロスランキングに準じる。

(1) 対象競技大会および大会別のポイント

UCIシクロ・クロスランキング表による。

(2) 順位によるポイント

UCIシクロ・クロスランキング表による。

(3) ポイントの集計とランキングの公表

世界選手権大会終了後に公表する。

#### 8. マウンテンバイク(MTB)

(1) 2006マウンテンバイク・ポイント・ランキング・テーブル

(2) ポイントの集計とランキングの公表

① 年間を通じて、すべての公認大会を対象としてクロス・カントリ、ダウンヒルそれぞれ上位者にポイントが与えられる。

② ジャパン・シリーズにおいては各カテゴリを基準に、全日本選手権大会においては、UCI規則の年齢カテゴリにて競技を行い、各参加クラス(ジュニア、U23、シニア・エリート、マスター)での順位に応じたポイントを受けられる。

③ このランキングは翌年度のカテゴリ昇降格の基準となる。

# 競技大会 結果

大会名、チーム名等については略して記載

## 第40回全日本実業団東日本ロードレース大会 (2006/04/29 群馬・群馬CSC)



東日本実業団BR-1優勝の山本 (写真上の先頭も)

BR-1 (108km)

1	山本 雅道	JPCA	ハルシーグ	2:39:35
2	田代 恭崇	JPCA	ブリヂストン	2:39:35
3	真鍋 和幸	香川	Team Nippo	2:39:37
4	鈴木 真理	JPCA	ミタバル	2:39:38
5	阿部 良之	JPCA	ハルシーグ	2:39:43
6	田中 光輝	愛知	愛三工業	2:39:44
7	岡崎 和也	JPCA	Team Nippo	2:39:50
8	飯野 嘉則	東京	スミダ	2:39:52
9	中村 誠	石川	ミタバル	2:40:11
10	筧 五郎	長野	Comrade	2:40:23

BR-2 (72km)

1	秋元佑一朗	神奈川	ブリヂストン	1:50:45
2	清水 良行	岡山	Team Nippo	1:50:55
3	飯田 輝男	茨城	J-Kawasaki	1:50:55
4	普久原 奨	沖縄	ブリヂストン	1:51:26
5	辻浦 圭一	奈良	ブリヂストン	1:51:28
6	Mark Burns	石川	ウルワークス	1:51:36
7	山本 幸平	北海道	ブリヂストン	1:51:36
8	後藤 輝朗	千葉	日野自動車	1:51:36
9	稲益 拓也	京都	Comrade	1:51:37
10	高橋 純	岩手	ペルキップ	1:51:37

BR-3 (54km)

1	善波 昭	神奈川	デュロ	1:22:48
2	岩島 啓太	東京	なるしまフレンド	1:22:51
3	鈴木 良則	東京	spacebikes	1:22:51
4	真田 冬樹	静岡	ポテトレーシング	1:22:52
5	菱山 毅	東京	ダイワ・ボンツァス	1:22:52
6	山本 聖吾	長野	快レーシング	1:22:52
7	鎌田 圭介	東京	スミダ	1:22:52
8	加藤 誠一	静岡	SPADE・ACE	1:22:52
9	福原 洋介	東京	チームマックス	1:22:52
10	林 宏憲	福井	BALBA	1:22:52

女子 (60km)

1	片山 梨絵	神奈川	ポントガ-	1:42:42
2	西 加南子	千葉	スミダ	1:47:43
3	永山 貴生	千葉		1:47:49
4	小山美貴子	埼玉	ZELKOVA	1:48:48
5	戸井麻里子	埼玉	なるしまフレンド	1:53:53
6	和地 恵美	東京	たかだフレンド	1:53:53
7	岡野 尚美	静岡	SPADE・ACE	1:53:54
8	智野 真央	東京	SERENO	1:53:58

## ワールド・韓国2006 (UCI2.2) (2006/5/4-10 大韓民国)



個人総合時間

1	ERLER TOBIAS	GER	GNT	19:44:46
2	OH Se Yong	KOR	SCT	19:45:17
3	KARIMOV Ruslan	UZB	UZB	19:46:12
5	阿部 良之	JPN	SKS	19:46:37
7	田代 恭崇	JPN	JPN	19:46:46
9	岡崎 和也	JPN	NIP	19:47:15
10	真鍋 和幸	JPN	NIP	19:47:21
11	廣瀬 佳正	JPN	SKS	19:47:21
16	池田 丈志	JPN	JPN	19:47:34

17	大内 薫	JPN	SKS	19:47:34
24	鈴木 真理	JPN	JPN	19:47:34
41	飯島 誠	JPN	JPN	20:31:07
46	島田 真琴	JPN	JPN	20:42:52
47	辻 貴光	JPN	SKS	20:50:22
48	清水 良行	JPN	NIP	20:51:02
52	石田 哲也	JPN	NIP	21:03:22
63	中村 誠	JPN	JPN	21:13:57

### 団体総合時間

1	Seoul City Cycling Team	59:19:47
2	Gaint Asian Racing Team	59:20:23
3	DRAPAC Porche	59:20:40
4	SKIL Shimano	59:21:32
6	Japan national Team	59:21:58
7	Team NIPPO	59:22:16

### 山岳賞

1	田代 恭崇	JPN	JPN	24p
2	KARIMOV Ruslan	UZB	UZB	18p
3	ERLER TOBIAS	GER	GNT	10p

### 第1ステージ 5/4 (64km)



1	SHAW Stuart	AUS	DPC	1:29:57
2	岡崎 和也	JPN	NIP	1:29:57
3	ERLER TOBIAS	GER	GNT	1:29:57
4	阿部 良之	JPN	SKS	1:29:57
5	真鍋 和幸	JPN	NIP	1:29:57
6	廣瀬 佳正	JPN	SKS	1:29:57
15	大内 薫	JPN	SKS	1:30:10
18	山本 雅道	JPN	SKS	1:30:10
28	島田 真琴	JPN	JPN	1:30:10
46	辻 貴光	JPN	SKS	1:30:10
54	清水 良行	JPN	NIP	1:30:10
55	池田 丈志	JPN	JPN	1:30:10
61	飯島 誠	JPN	JPN	1:30:10
66	鈴木 真理	JPN	JPN	1:30:10
67	田代 恭崇	JPN	JPN	1:30:10
73	石田 哲也	JPN	NIP	1:30:10
94	中村 誠	JPN	JPN	1:30:10

### 第2ステージ 5/5 (60km)

1	MCLACHLAN Robert	AUS	DPC	1:18:30
2	ERLER TOBIAS	GER	GNT	1:18:30
3	PARK Seon Ho	KOR	SMT	1:18:30
5	辻 貴光	JPN	SKS	1:18:30
16	飯島 誠	JPN	JPN	1:18:30
18	池田 丈志	JPN	JPN	1:18:30
32	山本 雅道	JPN	SKS	1:18:30
35	岡崎 和也	JPN	NIP	1:18:30
41	真鍋 和幸	JPN	NIP	1:18:30
42	阿部 良之	JPN	SKS	1:18:30
45	島田 真琴	JPN	JPN	1:18:30
49	大内 薫	JPN	SKS	1:18:30

50	中村 誠	JPN	JPN	1:18:30
53	田代 恭崇	JPN	JPN	1:18:30
55	石田 哲也	JPN	NIP	1:18:30
92	鈴木 真理	JPN	JPN	1:18:30
93	廣瀬 佳正	JPN	SKS	1:18:30
94	清水 良行	JPN	NIP	1:18:30

## 第3ステージ 5/6 (166km)

1	ERLER TOBIAS	GER	GNT	4:36:41
2	OH Se Yong	KOR	SCT	4:36:45
3	KARIMOV Ruslan	UZB	UZB	4:37:38
10	池田 丈志	JPN	JPN	4:38:56
23	真鍋 和幸	JPN	NIP	4:38:56
24	辻 貴光	JPN	SKS	4:38:56
25	廣瀬 佳正	JPN	SKS	4:38:56
27	島田 真琴	JPN	JPN	4:38:56
28	岡崎 和也	JPN	NIP	4:38:56
33	田代 恭崇	JPN	JPN	4:38:56
37	大内 薫	JPN	SKS	4:38:56
38	鈴木 真理	JPN	JPN	4:38:56
39	阿部 良之	JPN	SKS	4:38:56
51	飯島 誠	JPN	JPN	4:56:56
54	山本 雅道	JPN	SKS	4:56:56
55	石田 哲也	JPN	NIP	4:56:56
59	中村 誠	JPN	JPN	4:57:11
	清水 良行	JPN	NIP	DNF

## 第4ステージ 5/7 (63km)

1	JANG Sun Jae	KOR	SMT	1:22:35
2	CHOI Gi Rak	KOR	KSU	1:22:35
3	LEE Jeong Wook	KOR	KJT	1:22:35
20	池田 丈志	JPN	JPN	1:22:35
43	島田 真琴	JPN	JPN	1:22:35
49	飯島 誠	JPN	JPN	1:22:35
53	岡崎 和也	JPN	NIP	1:22:35
54	真鍋 和幸	JPN	NIP	1:22:35
58	清水 良行	JPN	NIP	1:22:35
63	中村 誠	JPN	JPN	1:22:35
66	阿部 良之	JPN	SKS	1:22:35
67	田代 恭崇	JPN	JPN	1:22:35
68	鈴木 真理	JPN	JPN	1:22:35
70	大内 薫	JPN	SKS	1:22:35
74	廣瀬 佳正	JPN	SKS	1:22:35
81	辻 貴光	JPN	SKS	1:22:35
86	石田 哲也	JPN	NIP	1:22:35
87	山本 雅道	JPN	SKS	1:22:35

## 第5ステージ 5/8 (180.6km)

1	SHAW Stuart	AUS	DPC	4:47:56
2	PARK Sung Baek	KOR	SCT	4:47:56
3	田代 恭崇	JPN	JPN	4:47:56
5	阿部 良之	JPN	SKS	4:47:56
13	大内 薫	JPN	SKS	4:48:40
17	池田 丈志	JPN	JPN	4:48:40
25	真鍋 和幸	JPN	NIP	4:48:40

26	岡崎 和也	JPN	NIP	4:48:40
27	廣瀬 佳正	JPN	SKS	4:48:40
29	鈴木 真理	JPN	JPN	4:48:40
40	清水 良行	JPN	NIP	4:48:53
48	飯島 誠	JPN	JPN	5:03:35
55	山本 雅道	JPN	SKS	5:03:38
56	辻 貴光	JPN	SKS	5:03:38
	中村 誠	JPN	JPN	DNF
	島田 真琴	JPN	JPN	DNF
	石田 哲也	JPN	NIP	DNF

## 第6ステージ 5/9 (167.2km)



1	MCLACHLAN Robert	AUS	DPC	4:07:19
2	PARK Sung Baek	KOR	SCT	4:07:19
3	JANG Sun Jae	KOR	SMT	4:07:19
17	辻 貴光	JPN	SKS	4:07:19
19	真鍋 和幸	JPN	NIP	4:07:19
31	池田 丈志	JPN	JPN	4:07:19
33	阿部 良之	JPN	SKS	4:07:19
34	大内 薫	JPN	SKS	4:07:19
40	田代 恭崇	JPN	JPN	4:07:19
42	岡崎 和也	JPN	NIP	4:07:19
43	廣瀬 佳正	JPN	SKS	4:07:19
52	山本 雅道	JPN	SKS	4:07:19
56	鈴木 真理	JPN	JPN	4:07:19
65	清水 良行	JPN	NIP	4:07:19
70	石田 哲也	JPN	NIP	4:07:19
87	島田 真琴	JPN	JPN	4:17:39
89	飯島 誠	JPN	JPN	4:17:39
90	中村 誠	JPN	JPN	4:17:39

## 第7ステージ 5/10 (133.6km)

1	LAPHORNE Darren	AUS	DPC	3:23:38
2	WIESIAK Mariusz	POL	NIP	3:23:59
3	CHOI Seok Yoon	KOR	EJB	3:23:59
9	島田 真琴	JPN	JPN	3:23:59
19	鈴木 真理	JPN	JPN	3:23:59
29	廣瀬 佳正	JPN	SKS	3:23:59
40	阿部 良之	JPN	SKS	3:23:59
41	真鍋 和幸	JPN	NIP	3:23:59
45	池田 丈志	JPN	JPN	3:23:59
47	大内 薫	JPN	SKS	3:23:59
50	岡崎 和也	JPN	NIP	3:23:59
53	田代 恭崇	JPN	JPN	3:23:59
54	清水 良行	JPN	NIP	3:23:59
59	飯島 誠	JPN	JPN	3:24:17
67	中村 誠	JPN	JPN	3:36:49
68	石田 哲也	JPN	NIP	3:36:49
	山本 雅道	JPN	SKS	DNF
	辻 貴光	JPN	SKS	DNF

## 第8回修善寺カップ 女子オープントラック・ロードレース

(2006/5/20 静岡・日本CSC 5kmサキット/北400mトラック)

## 女子スプリント

1	岡 希美	群馬	法政大学
---	------	----	------

2	越田恵美子	石川	PEACE SPORT
3	濱田 真子	東京	
4	三宅 悠里	愛知	天狗党

## 女子500mタイムトライアル

1	岡 希美	群馬	法政大学	39.438
2	和地 恵美	東京	たかだろん	40.331
3	三宅 悠里	愛知	天狗党	40.399
4	濱田 真子	東京		41.436
5	越田恵美子	石川	PEACE SPORT	41.906
6	堀 友紀代	神奈川		42.429

## 女子2km個人追抜競走

1	針谷千紗子	栃木	作新学院高	2:58.140
2	石井 愛	京都	花園高校	2:58.457
3	船木 美幸	東京	PAT	3:20.849
4	田中 琴絵	兵庫	兵庫商業高	3:44.503

## 女子3km個人追抜競走

1	萩原麻由子	群馬	鹿屋体育大	4:09.544
2	和田見里美	鳥取	中京大学	4:14.245
3	井上 玲美	東京	法政大学	4:16.922
4	宮崎 杏菜	大分	鹿屋体育大	4:18.130
5	堀 友紀代	神奈川		4:29.362
6	永田 萌子	大分	明治大学	4:36.499

## 女子5km個人追抜競走 (10km)

1	萩原麻由子	群馬	鹿屋体育大学	23p
2	和田見里美	鳥取	中京大学	11p
3	井上 玲美	東京	法政大学	7p
4	宮崎 杏菜	大分	鹿屋体育大学	7p
5	石井 愛	京都	花園高校	1p
6	針谷千紗子	栃木	作新学院高校	-16p

## 女子ロードレース (20km)

1	萩原麻由子	群馬	鹿屋体育大学	39:36
2	和田見里美	鳥取	中京大学	41:31
3	井上 玲美	東京	法政大学	43:38
4	針谷千紗子	栃木	作新学院高校	43:43
5	和地 恵美	東京	たかだろん	43:58
6	宮崎 杏菜	大分	鹿屋体育大学	45:10
7	中山 朋子	神奈川		45:52
8	佐藤紗矢香	北海道	北海道大学	46:04
9	石井 愛	京都	花園高校	46:05
10	堀 友紀代	神奈川		46:05

## 女子総合成績

1	萩原麻由子	群馬	鹿屋体育大学	32p
2	和田見里美	鳥取	中京大学	26p
3	岡 希美	群馬	法政大学	22p

## 第8回門田杯U-23ロードレース大会

(2006/5/21 静岡・日本CSC 5kmサキット)

## 男子個人ロードレース (100km)

1	後藤 辰徳	岐阜	日本大学	2:57:57
2	三瀬 光誠	山形	鹿屋体育大	2:58:01
3	矢代 慎吾	富山	日本大学	2:58:01
4	宮崎 隼	東京	明星大学	2:58:01
5	大庭 伸也	宮城	日本大学	2:58:06
6	片山 和正	岡山	鹿屋体育大	2:58:20
7	佐々木優也	広島	京都産業大	3:00:17
8	中島 康晴	福井	鹿屋体育大	3:00:23
9	山下 貴宏	兵庫	ミナソール	3:01:13
10	池田 丈志	奈良	鹿屋体育大	3:01:27

## 第8回修善寺カップ 男子ジュニア・U-23ロードレース

(2006/5/21 静岡・日本CSC 5kmサキット)

## 男子個人ロードレース (80km)

1	伊丹 健治	群馬	前橋育英高	2:30:18
---	-------	----	-------	---------

- 2 伊藤 雅和 神奈川 法政第二高 2:31:10
- 3 小森 亮平 広島 ダイワポンス 2:34:39
- 4 石倉 龍二 和歌山 日本大学 2:34:55
- 5 椿 佑樹 神奈川 横浜高校 2:34:55
- 6 増田 威望 千葉 オટેイ 2:34:55
- 7 笠原 慶輔 茨城 常総学院高 2:35:07
- 8 和田 良太 栃木 作新学院高 2:36:11
- 9 三枝 謙一 東京 八王子工高 2:38:44
- 10 平塚 吉光 静岡 修善寺工高 2:42:35

第6回全日本実業団トラック記録大会  
(2006/5/21 静岡・日本CSC 250mトラック)

- 男子スプリント
- 1 屋良 朝春 日本大学
  - 2 湯原 正行 チームサイクルマインド
  - 3 小田倉勇二 スバル・カスリートホク
  - 4 多田 司 ヲダスバル・ルネ
  - 5 水野 悟志 マツバ・D-チアRIAKE
  - 6 連沸 康浩 Z-1 MEDALIST.RC
- 男子ケイリン
- 1 鈴木雄一朗 日本大学
  - 2 中村 健志 日本大学
  - 3 高森 旭二 デュボ
  - 4 岡村 敬之 デュボ
  - 5 駒井 大輔 スマタハ・ネハ・ルネ
  - 6 湯原 正行 チームサイクルマインド
- 男子4km個人追抜競走
- 1 川西 貴之 日本大学 4:57.437
  - 2 Mark Burns ウィルバックスSBC 5:01.413
  - 3 善波 昭 デュボ 5:07.367
  - 4 青木 康貴 日本大学 5:08.433
  - 5 辻中 国宏 日本大学 5:09.495
  - 6 明珍多久雄 チーム・チェン 5:10.277
- 男子1kmタイムトライアル
- 1 城 幸弘 日本大学 1:08.605
  - 2 片岡 迪之 Z-1 MEDALIST 1:09.268
  - 3 屋良 朝春 日本大学 1:09.773

- 4 鈴木雄一朗 日本大学 1:09.862
  - 5 山崎 潤 デュボ 1:10.030
  - 6 武田 憲祐 湘南愛輪会 1:10.106
- 男子ホクトレース(20km)
- 1 吉井 功治 JOA-FORZALレーシング 23p
  - 2 善波 昭 デュボ 20p
  - 3 明珍多久雄 チーム・チェン 16p
  - 4 川西 貴之 日本大学 16p
  - 5 河合 康晴 ミソノレーシング 11p
  - 6 高橋 仁 チーム・チェン -18p
- 男子チームスプリント
- 1 日本大学 真船・城・中村 50:235
  - 2 湘南愛輪会 和田真・亀山・武田 50:401
  - 3 Z-1 MEDALIST 小西・連沸・片岡 50:539
  - 4 天狗党 小林・林・和田治 50:888

- 男子4km団体追抜競走
- 1 デュボ 善波・大村・山崎・高森 5:09.065
- 女子500mタイムトライアル
- 1 大塚 沙織 ハナニックルレーシング 41.468
  - 2 濱田 真子 スマタハ・ネハ・ルネ 41.764
  - 3 三宅 悠里 天狗党 41.766
  - 4 三井 由香 ヲダスバル・ルネ 42.792
  - 5 中山 朋子 42.869
  - 6 越田恵美子 PEACE SPORT 43.902
- 女子3km個人追抜競走
- 1 大塚 沙織 ハナニックルレーシング 4:20.441
  - 2 濱田 真子 スマタハ・ネハ・ルネ 4:29.825
  - 3 中山 朋子 4:41.055
  - 4 越田恵美子 PEACE SPORT 4:47.104
  - 5 高橋 美保 4:59.350
  - 6 三井 由香 ヲダスバル・ルネ 5:19.655

ツール・ド・韓国 2006 日本代表選手団

- 大会名 ツール・ド・韓国 2006(UCI2.2)
- 大会日程 2006年5月4日～10日
- 派遣日程 2006年5月2日～11日
- 開催場所 大韓民国
- 派遣選手団
- 監督 藤野 智一(JCFロード競技部会部会員)
- メカニック 中島 康仁(JCFロード競技部会支援スタッフ)
- 広報 小野 絹代(JCFロード競技部会部会員)
- 選手 田代 恭崇(JPCA・チームブリヂストン・アンカー)
- 飯島 誠(JPCA・チームブリヂストン・アンカー)
- 鈴木 真理(JPCA・ミヤタスバルレーシングチーム)
- 中村 誠(石川・ミヤタスバルレーシングチーム)
- 池田 丈志(奈良・鹿屋体育大学)
- 島田 真琴(東京・法政大学)

連盟の動き (4月下旬～5月中旬)

- 4月22日 ロードU23イタリア遠征代表選手団出発 於：イタリア(帰国 5/3)
- 5月2日 ツール・ド・韓国日本代表選手団出発 於：大韓民国(帰国 11日)
- 15日 平成18年度第1回選手強化委員会 於：愛媛・松山
- 18日 平成18年度第1回ロード競技部会 於：静岡・御殿場
- 19日 トラック強化合宿 於：静岡・日本CSC(～25日)

JCF協賛スポンサー

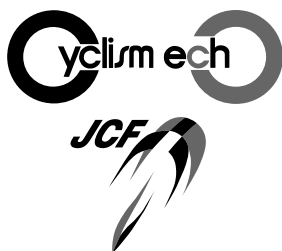










シクリスムエコー No.129 2006年5月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟  
 発行人/岩楯昭一  
 編集人/加藤 昭  
 編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟 事務局  
 〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内  
 TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>